2020 年度 事業報告書

1．事業総括

1． 1．団体の活動基盤について

昨年度に引き続き、2020 年度は団体の成長プロセスを「統合化」ということで、戦略の共有に注力した。具体的には、「デロイトトーマツコンサルティング合同会社」によるプロボノ（Pro Bono）支援を行い、基本理念、ミッション、ビジョンの再検討及びそれを基にした基本戦略の検討により、団体としての方向性を再確認した。詳細は、1.2 を参照のこと。

年度	2011-2013	2014-2016	2017-2019	2020-2022	2023-2025
組織の成長プロセス	初期段階	構造化	標準化	統合化	最適化
状況	場当たり 属人的	徐々に明文化 計画的	プロセスの 明文化	戦略の 共有	継続した 改善
運営形態	一部のスタッフのみが運営	チーム制	チーム／ プロジェクト制	検討中	検討中

1． 2．基本理念・ミッション

■ 基本理念
多様なコミュニケーションにより人と情報をつなげ、一人ひとりが自分らしく価値を発揮しながら調和した社会を創ろう

■ ミッション
現代社会に存在するコミュニケーション上の課題 ※バリアを明らかにし、自助・共助・公助の施策でバリアに対する気づきと理解を社会全体に広めていく事で、一人ひとりの行動を変えていく
※「バリア」の例
- ✓ 社会における相互理解を阻害する「コミュニケーションバリア」
- ✓ 情報へのアクセスを阻害する「情報バリア」

※ビジョンについては、2021 年度各プロジェクト・チームの方針案を参照のこと。

1． 3．コミュニケーションバリアフリー推進事業（CBF）

2020 年度も継続して各プロジェクト・チームにおいて、コミュニケーションバリアフリー推進事業を実施した。

No	担当	プロジェクト名
1	吉岡 弘貴	コミュニケーションバリアフリーチーム
2	藤木 和子	家族をみんなでカンガエループロジェクト
3	山口 タケシ	電話リレーサービス普及プロジェクト
4	吉田 将明	手話による医療通訳推進プロジェクト

2．事業の成果

２．１．コミュニケーションバリアフリー推進事業（CBF）

（１）コミュニケーションバリアフリーチーム＝CBF（担当：吉岡　弘貴）

■ 2020 年度　総括
トーマツコンサルティングとのプロボノ結果を鑑みて、CBF の活動方針を Team で検討　下記 2 つのテーマで活動を開始した。
(1) 聴覚障害者の離職率高止まりの原因究明と対策
(2) 聴覚障害者のキャリアアップ

■ 2020 年度　活動報告
2020 年 8 月　CBF チーム内で活動方針決め
2020 年 10 月　The Valuable 500 について勉強会
2021 年 2 月～3 月　KJ 法による聴覚障害者の課題洗い出し
2021 年 2 月～3 月　5 月企画（プレゼン力&ファシリテーションの力のスキルアップ）の準備

（２）家族をみんなでカンガエループロジェクト（担当：藤木　和子）

■ 2020 年度　総括
ヤングケアラー支援が注目される中で、2021 年 1 月 30 日の家族をみんなでカンガエルーシンポジウムに 300 名の参加（稲城市聴覚障害者協会、SODA の会、J-CODA と共催）、2 月の YouTube ライブ・関連動画が（SODA の会と共催）が合計約 3 万回の再生となり、周知が爆発的に高まった年度となった。

■ 2020 年度　活動報告
シンポジウムの開催準備を 2020 年 1 月から開始した。
2021 年 1 月 30 日　家族をみんなでカンガエルーシンポジウム
2021 年 2 月 8 日～14 日 YouTube ライブ　キコエナイ/キコエル家族、JAMMIN T シャツプロジェクト
2021 年 3 月 17 日　ヤングケアラー支援に向けた厚生労働省と文部科学省の共同によるプロジェクトチーム（PT）の立ち上げに先立ち、「障害のある子どものきょうだい」や「聴覚障害がある家族のいる子どもたち」も含み、ひとりも取り残さず支援いただけるよう、山本博司厚生労働副大臣に提言書を提出。

（３）電話リレーサービス普及プロジェクト（担当：山口　タケシ）

■ 2020 年度　総括
・2020 年 6 月 5 日に電話リレーサービス法（正式名称：聴覚障害者等による電話の利用の円滑化に関する法律）が国会で可決・成立。所感として、これまで IGB が行ってきた様々な活動が形になった成果とも言える。

■ 2020 年度　活動報告
・講演の実績
自団体主催はなく、他団体主催に講師として招かれたものが多かった。理由としては、IGB の知名度があがってきたことの他、助成金が得られていない点も大きい。
・陳情 2 回
木村弥生前総務大臣政務官、今井絵理子前内閣府大臣政務官
・ヒアリング出席 1 回（総務省）
・意見書提出 2 回（衆議院総務委員会、参議院総務委員会）
・パブリックコメント提出 1 回（電話リレーサービス）
・普及パンフレットを希望者に無償で 1,000 部配布（GiveOne の寄付が資金源）

（４）手話による医療通訳推進プロジェクト（担当：吉田将明）

■　2020 年度　活動報告

（1）病院で働く手話言語通訳者の全国実態調査（病院通訳調査）
・国立大学法人筑波技術大学（大杉豊教授）と連携して実施
・2021 年 3 月末に調査報告書と病院のリスト公開
・クラウドファンディングによる「手話による医療通訳育成・普及プロジェクト」と国立大学法人筑波技術大学の2020 年度の「学長のリーダーシップによる教育研究等高度化推進事業」を調査資金として実施
・ニュースリリース実施
・調査員：吉田将明、鈴木美紀、古屋敷一美、槇原理恵、山口龍子、大杉豊

（2）透明マスクの作り方公開
・IGBweb サイトに無料公開（約 6 万アクセス）
・ニュースリリース実施
・新聞数回掲載

（3）医療用語手話 DVD の販売
・約 1,700 枚販売済（約 130 万円の黒字（経費等差引後）
・ニュースリリース、日本聴力障害者新聞掲載等実施
・アンケート結果、続編（シリーズ化）のニーズが多くあり、継続取り組みを検討

（4）グローバルヘルス合同大会 2020 大阪での発表
・病院通訳調査の一部をポスター発表
※発表題名：全国の病院における手話言語通訳者の配置状況
発表者：吉田将明、鈴木美紀、古屋敷一美、槇原理恵、山口龍子

（5）国際臨床医学会学術誌へ論文掲載
・平成 30 (2018) 年度厚生労働省障害者総合福祉推進事業指定課題 11「専門分野における手話言語通訳者の育成カリキュラムを検討するためのニーズ調査研究事業」の医療分野について筑波技術大学と連携し執筆
※論文題名：手話言語による医療通訳の存在と課題
執筆者：吉田将明、畠山純恵、白澤麻弓、大杉豊

（6）筑波技術大学の医療分野における手話言語通訳者育成カリキュラムの検討
・研究協議会に 3 回参加
※参加者：吉田将明

（7）医療通訳シンポジウム
・関西学院大学と共催で実施を予定していたが、コロナ禍のため 2020 年度の開催はせず 2021 年度以降の延期となる

【その他】
・季刊 MIMI に新型コロナウイルスに関する内容を執筆

２．２．情報化社会の発展を図る活動

下記に示す通り、コミュニケーションバリア・情報バリアの解消のための企画を当初の事業計画通りに開催する事ができた。また、各企画のアンケートの結果も概ね好評であり、開催意義はあった。

（１）専門分野通訳 2020/5/30(土)
IGB としては初のオンラインセミナー「専門分野通訳の現状と課題を知ろう！」が行われた。聴覚障害者の社会進出に伴い、様々な専門分野（教育、司法、電話リレーサービス）においての通訳（手話通訳、PC 通訳など）が必要とされてきており、専門分野の通訳という視点で各分野の通訳を見たときに、技術面の課題がどのようなところにあるかを整理し、それを改善するための養成など制度的な取り組み等、共通の枠組みを考えていく場とすることを目的として開催。参加者数は、約 80 名、終始質問が相次ぐ盛況となった。

（２）超福祉展出展 2020/9/4(金)@渋谷ヒカリエ
超福祉展のセッション「シンポジウム：ウィズコロナ時代の望ましいコミュニケーション方法とは」というテーマにて、耳が聞こえない人がどのようなことに困っていて、解決方法としては何かあるかを講演。YouTube にて公開されており、約 1,200 回試聴されている。また、2020/9/2(水)～2020/9/8(火)の日程にて、コロナ禍のコミュニケーションバリアについて Web 上でオンライン展示を行った。

２．３．職業能力の開発又は雇用機会の拡充を支援する活動

（１）情報格差の問題意識を高めるための情報発信及び啓発事業

- 透明マスクの作り方を公開し、267,801PV と注目を浴び、取材を数社から受けた(共同通信社など)・英語版、ネパール語版も作成し、グローバル発信にも着手。
- フェイスシールド寄贈プロジェクトを立ち上げ、計 160 個の寄贈を行なった。(東京手話通訳等派遣センター、神奈川県聴覚障害者福祉センター、茨城県立水戸聾学校・茨城県立霞ヶ浦聾学校)
- UD トークを便利に使う各種接続機器は、累計 97 名からの申し込みがあり、121 個の提供を行なった。
- 日本聴力障害新聞・MIMI・近代消防に記事を掲載した。
- サステナブル・ビジネス・マガジン「オルタナ」に理事代表として、伊藤理事長が記事を掲載した。
- シンポジウム２回（専門通訳、家族）、講演 12 回（電話リレーサービス他）、出展１回の計 15 回実施し、延べ約 2,000 人以上が参加
- 手話議連（8/30）に講師として参加
- 陳情４回（電話リレーサービス２回、ヤングケアラー、コロナ会見）、ヒアリング出席 1 回(電話リレーサービス(総務省)、意見書提出２回（電話リレーサービス(衆議院総務委員会、参議院総務委員会)）、パブリックコメント提出１回（電話リレーサービス）、意見表明（旧優生保護法違憲訴訟判決について）を行った。
- プレスリリースを７回（手話による医療通訳(２回)、家族(４回)、電話リレーサービス(１回)）発行した。

（２）情報弱者をなくすための情報提供システムの開発事業

- Web サイトを運営し、通年で約 11 万名に発信した。(ユニークユーザー数)
- facebook ページの「いいね！」は 6,769 名(3 ページ合計, 昨年度比 405 名増加)を突破し、認知度が上がってきている。
- メルマガを 17 回発行(昨年度比 11 回増加)し、約 2,900 名(昨年比 900 名増加)が購読。

（３）情報リテラシー向上のための教育事業

- 今年度は活動なし。

（４）その他

- 2020 年度定期総会を 6/28 に、理事会は、2/19 に開催
- デロイトトーマツコンサルティング合同会社によるプロボの支援を 2020 年 4 月～7 月まで受けた。
- 第 6 回糸賀一雄記念未来賞を団体で受賞した。それに伴い、厚生労働省、日本財団、神奈川県、横浜市、川崎市、全日本ろうあ連盟、神奈川県聴覚障害者連盟を表敬訪問した。
- NPO による ICT サービス活用自慢大会 第 3 回】にて「PR・アドボカシー賞」「ファンドレイジング戦略賞」をダブル受賞した。

３．事業の実績に関する事項

３．１．特定非営利活動に係る事業

定款の事業名	事業内容	実施回数	実施日	実施場所	テーマ	受益対象者の範囲及び人数	
(1) 情報格差の問題意識を高めるための情報発信及び啓発	シンポジウム	2	‘20/5/30	オンライン	専門通訳	一般市民	80
			‘21/01/30	稲城市中央公民館ホール・オンライン	家族		428
	講演	12	‘20/4/28	立憲民主党・国民民主党 共同会派 総務部会	電話リレーサービス	議員	
			‘20/8/30	手話推進議連	コミュニケーションバリアフリー		32
			‘20/9/5	渋谷区社会福祉協議会	電話リレーサービス	市民	30
			‘20/9/27	オンライン(手話秋田普及センター主催)	コミュニケーションバリアフリー		25
			‘20/10/3	東京都中野区新井区民センター・オンライン	電話リレーサービス		40(*)
			‘20/10/22	東京都立中央ろう学校	電話リレーサービス		??
			‘20/12/19	神奈川県聴覚障害者福祉センター・オンライン	電話リレーサービス		30(*)
			‘20/10/3	東京都中野区新井区民センター・オンライン	電話リレーサービス		40(*)
			‘20/10/22	東京都立中央ろう学校	電話リレーサービス		60
			‘20/12/19	神奈川県聴覚障害者福祉センター・オンライン	電話リレーサービス		30(*)
			‘21/1/8	大阪府立生野聴覚支援学校	コミュニケーションバリアフリー		40
			‘21/3/27	仲町台地区センター	電話リレーサービス		40
	展示会	1	‘20/9/2～9/8	渋谷ヒカリエ・オンライン	コミュニケーションバリアフリー	一般市民	1,000 以上
(2) 情報弱者をなくすための情報提供システム開発 (情報提供システム開発事業・Web での情報発信)		–	通年	Web サイト		一般市民	110,000
(3) 情報リテラシー向上のための教育(ワークショップなどの開催／企画事業・セミナー)		0					
(4)情報弱者の雇用機会創出の支援 (障がい者ダイバーシティに関するディスカッション開催)		0					

３．２．その他の事業

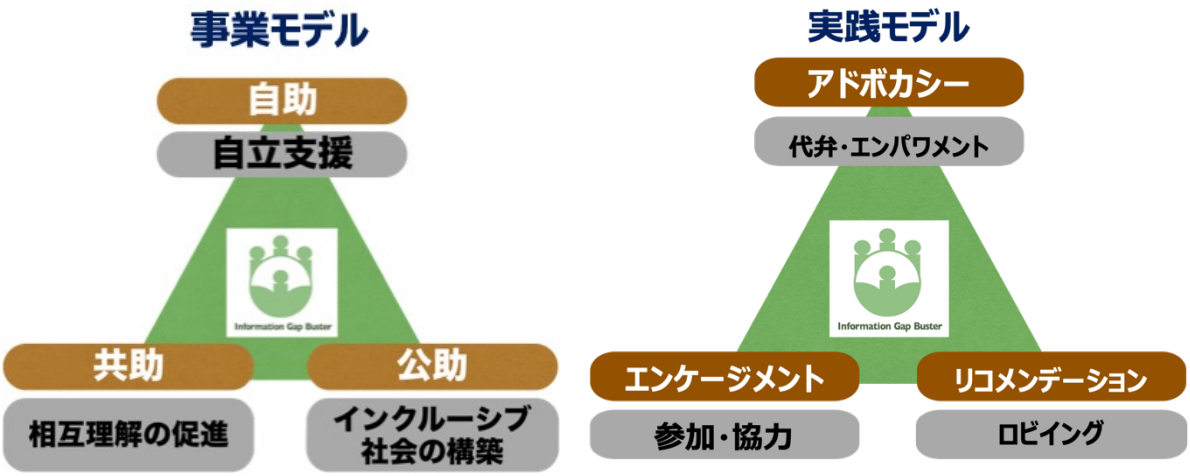
事業なし

2021 年度 IGB事業計画(案)

【2021 年度事業方針】

1. IGB事業モデルに対する実践モデル

IGB事業モデル(再掲)を具体的に実践する形としては右のようになる。



2. 2021 年度の活動方針

基本的に 2020 年度の継続とする。

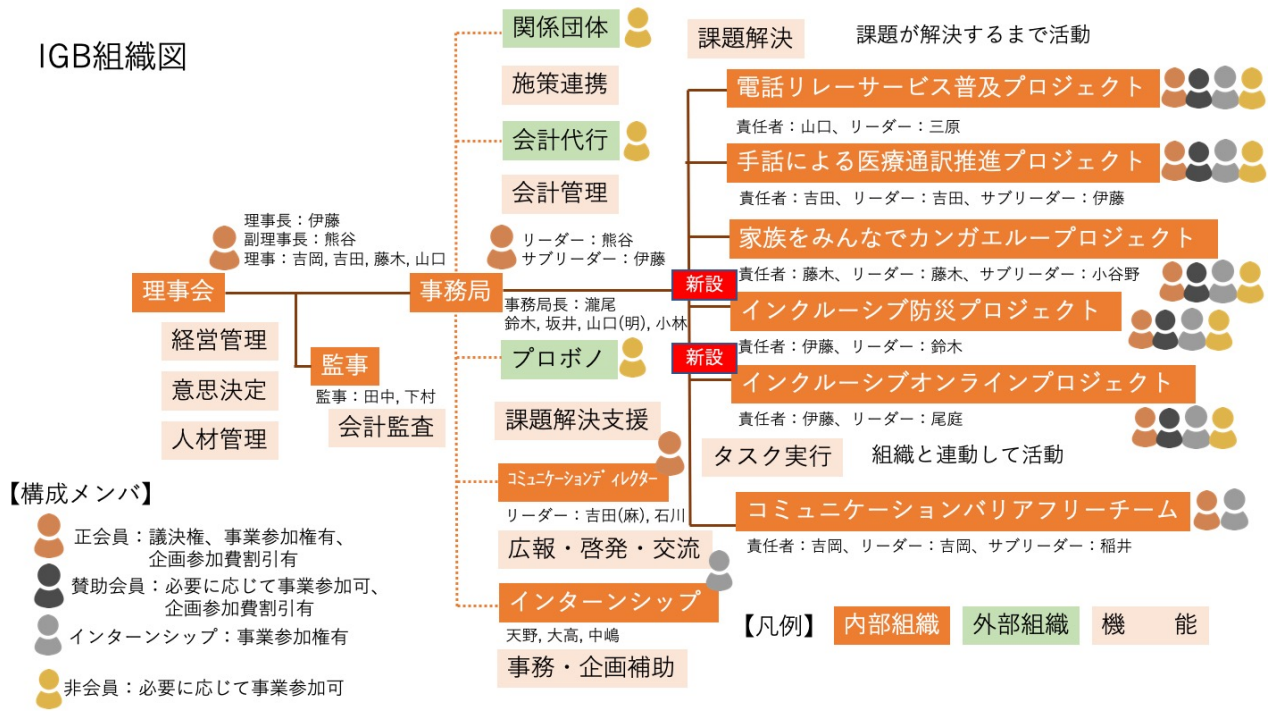
● 多者協働プラットフォームモデルの構築【継続】
既存の同一目的の組織の場合、人材、コストの面で限界があり、継続することが困難。
そのため、多様な目的を持つ関係団体が参加することでそれぞれのメリットを得ることができる場（多者協働プラットフォーム）の構築を長期的に推進すべく、複数の団体との協業を進めている。

● 対内外のコミュニケーション活性化【新規】
理事に依存していた対内外のコミュニケーションを理事以外の方にも分散させるべく、「コミュニケーションディレクター」を新設。団体内の交流、意見交換を促進し、ミッション・バリューを共有しつつ、団体外の関係者への情報発信を積極的に行い、団体のプレゼンスを向上させる。

● 事務局体制の強化【新規】
事務局員を３名→５名に増員し、負荷分散させる。

3. 運営体制について

下記の通り、チーム・プロジェクト体制を構築し、実行する。



4. 各チーム・プロジェクトの活動方針

（1） 事務局

- 政府や関連団体へ要望を出して、社会問題の解決を図る。
- 総会運営、横浜市、法務局などのNPO関係の手続、会計事務、会費徴収、団体活動に必要な情報の共有、情報共有ツール運営、助成金獲得などを行う。
- 市民へコミュニケーションバリア問題をWebサイト、facebookなどを活用して情報発信する。
- 会計処理のための会計代行サービスとの連携、立替金の決済処理などを行う。
- 県指定NPO法人化のための準備を行う。（将来的には認証NPO法人化を視野に入れる）

（2） コミュニケーションバリアフリーチーム（リーダー：吉岡）

- 2021 年 5 月　プレゼン力&ファシリテーションの力のスキルアップセミナー
- 2021 年 11 月　The Valuable 500 参加企業とのコラボ
- 2022 年 3 月　東京女子大学との協同企画(アイデアソン)　or　スキルアップセミナー
- 2022 年 3 月　職場への手話通訳、要約筆記派遣に対する要望提出
- その他　他団体との協同プロジェクトへの取り組み

（3） 家族をみんなでカンガエループロジェクト（リーダー：藤木）

- 2021 年 4 月　透明マスク配布
  キコエナイ子どもときょうだい、キコエナイ親をもつ子ども応援動画公開
- 2021 年 12 月～2022 年 1,2 月頃家族をカンガエルーシンポジウム開催予定
  年間を通じて、ヤングケアラー支援に関するロビイング活動を行う

（4） 電話リレーサービス普及プロジェクト（リーダー：山口）

・ （社会状況の変化）2021 年 7 月 1 日より、いよいよ法に基づいた電話リレーサービスの公的運用が開始
・ 24 時間 365 日対応、緊急通報対応、双方向発信対応など、これまでと大きく変わるメリットもあるが、本人認証問題など、一般財団法人電話リレーサービス、金融庁、経済産業省、消費者庁などと連携し、問題の解決を図る
・ 普及パンフレットを改訂し、印刷した 3,000 部を希望者へ配布予定
・ 家族をみんなでカンガエループロジェクトと連携し、聞こえない・聞こえにくい人がいる家族への電話リレーサービスの啓発を行う
・ 聞こえない・聞こえにくい当事者への啓発活動として、各地の手話サークルや聴覚障害関連団体などでの講演も引き続き行う

（5） 手話による医療通訳推進プロジェクト（リーダー：吉田）

（1）医療通訳シンポジウム
・ 関西学院大学と共催で実施予定
・ IGB単独での実施はコロナ禍の状況を見ながら検討

（2）講演会
・ 矢部愛子氏（ろう者、筑波大学助教）
・ アメリカでの博士論文（米国での遠隔医療手話通訳に対する医者とろう患者の評価比較）の内容を中心に予定
・ オンデマンド形式等で検討

（3）病院で働く手話言語通訳者の全国実態調査（病院通訳調査）
・ 学会等での発表メイン、一部でインタビュー調査等の調査研究の可能性あり
・ 2022 年度の医療従事者を対象にした調査に向けた準備
・ その他、鳥取県立厚生病院の病院取り組み記事作成等、コロナ禍の状況を見て検討

（4）医療通訳に関する教材DVD作成
・ 医療用語手話DVDの第二弾を作成
・ 他団体と連携しながら、時間をかけて取り組んでいく予定

（5）ロビー活動等
・ 病院通訳調査の結果をもとに厚生労働省や国会議員等へ陳情

（6） インクルーシブ防災プロジェクト（リーダー：鈴木）【新設】

1995 年阪神淡路大震災、2011 年東日本大震災などの現状から、被災時の情報伝達～情報格差を解消する為のプロジェクト

● 目的
災害発生時、一般市民と聴障者との情報格差を解消するために、原因究明し、必要な対策を進めることを目的とする。
● 課題
・ 防災意識が低い聴覚障害者の防災力をアップするためには
・ 災害に関する専門用語を手話通して、日本語弱者(ろう者)に正確に伝達するためには
・ 災害時の情報を、音声情報だけでなく「視覚的情報」の併用が一般化するためには
● 現状
自治体や町会、自治会など、「災害時、聴障者とどう付き合ったらいいかわからない」と声が多く、理解が希薄であ

る。

- 2021 年度計画
- 防災シンポジウム開催(開催地候補・東北地方) 防災講演会
- 人材開発及び育成、ネットワーク

（7） コミュニケーションディレクターチーム（リーダー：吉田麻莉）【新設】

2021 年度より、プロジェクト横断の取り組みを目指してチーム化

- 目的
  団体内のコミュニケーションを活性化させるとともに、外部のあらゆる機関とつなぎ、プレゼンス・存在価値を向上させる。
- 対外活動例
- 憲民主党のフェスタのような外のイベントに出席
- SNSでの発信
- 国会議員の陳謝への参加　など
- 対内活動例
- インターンシップ内でのやりとりをまとめる
- IGB理念を団体内に浸透させる
- 「理事会および一部のコアメンバ」と「それ以外の会員」との橋渡し（事務局と連携）

（8） インクルーシブオンラインプロジェクト（リーダー：尾庭）【新設】

- 実現目標
- オンライン上で、話者・画面共有の資料・UDトークの字幕・手話通訳者を表示するサービスの安定的な提供・運営
- 動機
- 所属する団体や活動の中で、もしここにろう者や難聴者がいたら、どうやって情報保障するのだろう？と思う場面がたくさんある。またそこに実際に聴覚障がい者がいるのに、これで情報保障できたつもりになっているのか？という違和感を感じることや、情報さえ届けば、参加したいろう者・難聴者もいるだろうにと思う場面も多々。また、聴覚に障がいがある友人が、趣味の講座を受けようとしたときに、公的な手話通訳派遣はしてもらえずに自力で通訳者を探していて、出向いたことがあったのですが、受講するろう者・難聴者だけが苦労しなくてはいけない現状に大きな疑問がある。公的な通訳は、病院、学校、役所に限られるとよく聞くが、いかなる人も、様々な学びをする機会や、他の人たちと交流して、その中から心を耕し、豊かな時間を得ることは、とても大切なことだと考えて本チーム発足を提案した。
- 目的
- オンラインセミナーや講演会、ワークショップなどにおいて、誰をも排除しない仕組みづくりをすること。
- 手話ができる人もできない人も一緒に学び、意見交換をし、一緒に笑える環境を当たり前にしていくこと。
- サービスの対象者
- ろう者、先天性難聴者、後天性難聴者
- 高齢者
- コンテンツを持っている人、サービスを提供したい人
- 一緒に活動する人を探している団体
- 一般向けにコンテンツやサービスを発信したいろう者や難聴者
  ※手話を学びたい人にも、生の手話を観る絶好の機会になる可能性もある
- 現状
- ありとあらゆるものがオンライン化している状況だからこそ得られる機会が豊富にあり、また話者、通訳者、字幕提供者、受講者が、離れた地域にいても全く問題ない。しかし、オンライン上で、ろう者や難聴者が情報保障を得るための方法がまだ確立されていないため、情報を得られる機会をロスしている。

● 課題

ろう者や難聴者がオンライン上で情報保障を得るための方法がまだ確立されていない。実現するために、以下のアクション が必要である。

・ 運営体制の確立
・ サービスの普及
・ 手話通訳者やUDトークの方々への謝礼などの運営資金の確保
・ オンライン上に顔を出したくない手話通訳者への配慮（録画しないなど）

● その他

・ 手話通訳、字幕（UDトーク）提供者への仕事の創出と、社会的認知度をあげることによる社会的地位の向上の一助に。
・ リアルな場面に出向くことにはなかなか抵抗があって、新たな友達を作りにくい人にも、出会い、学びの場の提供を。
・ 一見、聴覚障がい者のためのサービスに見えるが、高齢者や音声が出せない環境で学びたい人、視覚情報が優位な人など、聴覚障がい者ではない人にとっても有効な場合がある。
・ グラレコの活用も視野にいれたい

● 実施計画（案）

（1） 運営体制の検討・ノウハウの蓄積(７月～８月)
（2） スタートアップ（最小限の運用開始）(９月～１２月)
（3） 本番開始（２０２２年１月）

● 運営スタッフの動き（案）

(1) 派遣依頼(日時、時間、通訳種類の概要(難易度)を聞く)
(2) 通訳レベルの検討・スケジュール調整
(3) 資料の事前展開、講師・企画担当・通訳との打ち合わせ（必要に応じて）
(4) 本番の円滑な通訳のサポート
(5) 反省・次回以降の引き継ぎ

5. 2021 年度の予定（企画）

2021.4	【事務局】 県指定NPO法人化のための準備を行う。（将来的には認証NPO法人化を視野に入れる）
2021.5	【コミュニケーションバリアフリーチーム】 プレゼン力&ファシリテーションの力のスキルアップセミナー
2021.6	
2021.7	【電話リレーサービス普及プロジェクト】 ・ 電話リレーサービスの公的運用開始に伴い、普及パンフレットを改訂、希望者へ配布 【インクルーシブオンラインプロジェクト】 ・ 運営体制の検討・ノウハウの蓄積
2021.8	
2021.9	【インクルーシブオンラインプロジェクト】 スタートアップ（最小限の運用開始）
2021.10	
2021.11	【コミュニケーションバリアフリーチーム】 The Valuable 500 参加企業とのコラボ
2021.12	
2022.1	【インクルーシブオンラインプロジェクト】 本番開始
2022.2	

2022.3	【コミュニケーションバリアフリーチーム】 ・　東京女子大学との協同企画(アイデアソン)　or　スキルアップセミナー ・　職場への手話通訳、要約筆記派遣に対する要望提出
常時	【事務局】 ・　市民へコミュニケーションバリア問題をWebサイト、facebookなどを活用して情報発信する。 【コミュニケーションディレクターチーム】 ・　SNSでの発信 ・　インターンシップ内でのやりとりをまとめる ・　IGB理念を団体内に浸透させる
随時	【事務局】 ・　政府や関連団体へ要望を出して、社会問題の解決を図る。 ・　総会運営、横浜市、法務局などのNPO関係の手続、会計事務、会費徴収、団体活動に必要な情報の共有、情報共有ツール運営、助成金獲得などを行う。 【手話による医療通訳推進プロジェクト】 ・　関西学院大学と共催で実施予定 ・　2022 年度の医療従事者を対象にした調査に向けた準備 ・　その他、鳥取県立厚生病院の病院取り組み記事作成等、コロナ禍の状況を見て検討 ・　医療用語手話DVDの第二弾を作成 【インクルーシブ防災プロジェクト】 ・　防災シンポジウム開催(開催地候補・東北地方)　防災講演会 【コミュニケーションディレクターチーム】 ・　憲民主党のフェスタのような外のイベントに出席 ・　国会議員の陳謝への参加